

令和7年11月13日（木曜日）

津久見市立保戸島中学校 高倉 光平先生の授業です。

授業の単元は、第3学年「相似な図形」。平行線と線分の比の定理を用いて線分の長さの求め方を考察し、説明する場面です。

導入では、前時の学習内容である平行線と線分の比の定理を確認し、本時の問題解決の手立てとなるよう黒板に位置付けました。平行線と線分の比の定理を用いるためには補助線が必要であることに気付いた生徒に、学習支援アプリによりカード（図1）を配付し、どのような補助線が必要かを考えさせ、問題解決に取り組ませていました。個で考える時間を十分に確保していたことから、生徒は複数の補助線を基にどの図であれば定理と結び付けることができるか、比較・検討しながら自分の考えをまとめていました。



図1

また、説明の場面では、他者の説明を聞き、数学的な表現を用いているか、根拠が明確に示されているかなどについて、評価シートを用いて評価し合うなどし、論理的に考察し表現する力の育成を重視した取組がなされていました。

事後研では、平行線と線分の比についての指導において、見いだした性質を別々のものとしたままにせず、統合的・発展的に考えること、例えば、次時以降の学習において、中点連結定理を平行線と線分の比の特別な場合として、統合的に捉え直すことの大切さ等について確認しました。

高倉先生は、常に「なぜ」を意識しながら授業に取り組んでいるとのこと。ぜひ、これからも生徒に疑問を抱かせ、主体的に取り組むことができる授業を展開してほしいと思います。

